

山荘に来てくださったお客さんが、上信越自動車道の横川サービスエリアで、おみやげに「だるま弁当」を買ってきてくれました。高崎を代表する名物駅弁で、真っ赤なだるま形の容器は昔から変わらぬ存在感があります。山菜やタケノコ、こんにゃく、鶏肉などが彩りよく盛られた素朴な味わいも懐かしく、私にとっては十年ぶりくらいの「だるま弁当」。久しぶりにふたを開け、懐かしい味をゆっくり楽しむことができました。

この弁当を見ていると、食べた思い出だけでなく、かつて図工の授業で活用したことも鮮明によみがえってきます。当時、駅弁会社をお願いして、新品の容器をなんと 100 個以上も譲っていただきました。子どもたちは赤いプラスチックの容器の周囲に、濡らした和紙を丁寧に張り付け、それをしっかり乾燥させてから容器からはずし、思い思いに彩色し、個性豊かな「だるま」を作りました。

もともと食べ終えた後には貯金箱として利用できるよう工夫された、遊び心いっぱいの容器です。それをさらに図工の教材として再利用したわけで、今でいうアップサイクルのような活動でもありました。今回、久しぶりにこの赤いだるまと再会し、懐かしい駅弁の味とともに、100 個以上のだるまが並んだ授業風景まで思い出す、うれしいおみやげとなりました。

